



自分の足で、目で確かめる～明野高校への避難経路確認ウォーキング～

5月9日、小学校区見守り隊の皆様のご協力により、明野高校への避難経路を確認する活動が行われました。当日は柏地区・三軒屋地区の子どもたちや保護者の皆様、各自治会長様も駆けつけてくださり、地域一丸となって防災への一歩を踏み出しました。

まず「海恵の宿」に集合し、避難所である明野高校を目指しました。片道約2キロ強の道のりですが、今回は単なる移動ではありません。「もしこの道が冠水して通れなくなったら、あちらの道へ迂回しよう。」「この集会所も、いざという時には一時的な避難場所になるんだよ。」といったように、実際の被災状況をリアルに想像しながら、あえて回り道をしたり、代替ルートを確認したりしながら進みました。

普段、地図の上で避難経路を理解していても、いざという時にさっと動けるとは限りません。しかし、今回のように実際に自分の足で歩き、景色を目に焼き付けることで、避難経路を「体で理解する」ことができました。当日は心地よい風が吹き抜け、ウォーキング気分で気持ちよく歩を進めることができ、参加した子どもたちにとっても、前向きに防災を考える良い機会となりました。

今年度、本校では防災教育にいっそう力を入れて取り組んでまいります。災害時に子どもたちの命を守るのは、知識だけでなく、今回のような地域に根ざした経験と、顔の見える「共助」のつながりです。

今後も保護者や地域の皆様と手を携え、子どもたちの安全を守るための取組を進めていきたいと考えております。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



友達とウォーキングを楽しみながら、明野高校を目指します。



冠水した場合の迂回ルートを教えていただくのも、よい勉強になりました。

ぐんぐん育て！さつまいもの苗植え体験



まずは、苗の植え方を教えていただきます。
こつは、竹の棒を斜めに差し込むこと。
「なるほど！」と子ども達。



「守る会」の皆様にはアドバイスをもらいながら、だんだん上手に植えることができるようになりました。

ることができました。自分たちの手で植えた苗を見つめる子どもたちの表情は、どこか誇らしげに見えました。

穏やかな5月の一、作物の命の始まりについて学ぶ素晴らしい機会となりました。これから夏を越し、土の中でどのようにお芋が育っていくのか、10月の収穫が今から待ち遠しく思います。準備からご指導まで、細やかなお心遣いをいただいた「東大淀を守る会」の皆様、本当にありがとうございました。

5月11日、初夏の爽やかな風が吹く中、1・2年生がさつまいもの苗植えを行いました。例年は、10月の収穫体験でお世話になっているのですが、今年は担任の先生方の「さつまいもがどうやって成長して『いも』になるのか、その過程を肌で感じてほしい」という願いもあり、苗植えから経験させていただくことになりました。

子どもたちの中には、「さつまいもは種を植えて育つもの」と思っている子も少なくありません。手に持った緑色の「つる（苗）」を見て、「これがお芋になるの？」と不思議そうにしている姿がありました。こうした驚きこそが、生きた学びの第一歩です。

畑にお邪魔すると、「東大淀を守る会」の方々が満面の笑顔で迎えてくださいました。子どもたちが作業しやすいようにと、事前に雑草を取り除き、土をふかふかに耕し、マルチ（黒いシート）まで完璧に整えてくださっていました。さらに驚いたのは、子どもたち一人ひとりに用意された「特製の竹の棒」です。「この棒をさつまいものつるにひっかけて、土の中に押し込みます。まっすぐ下に入れるのではなく、斜めに入ると、お芋がたくさんできますよ。」守る会の方からコツを教わると、子どもたちからは「なるほど！」と感心の声が上がりました。

しかし、いざ実践してみると、初めはなかなかコツがつかめず、苦戦する場面もありました。すると、守る会の方々が一人ずつに優しくアドバイスをしてくださりました。だんだんとコツを掴み、最後にはどの子も上手に植える